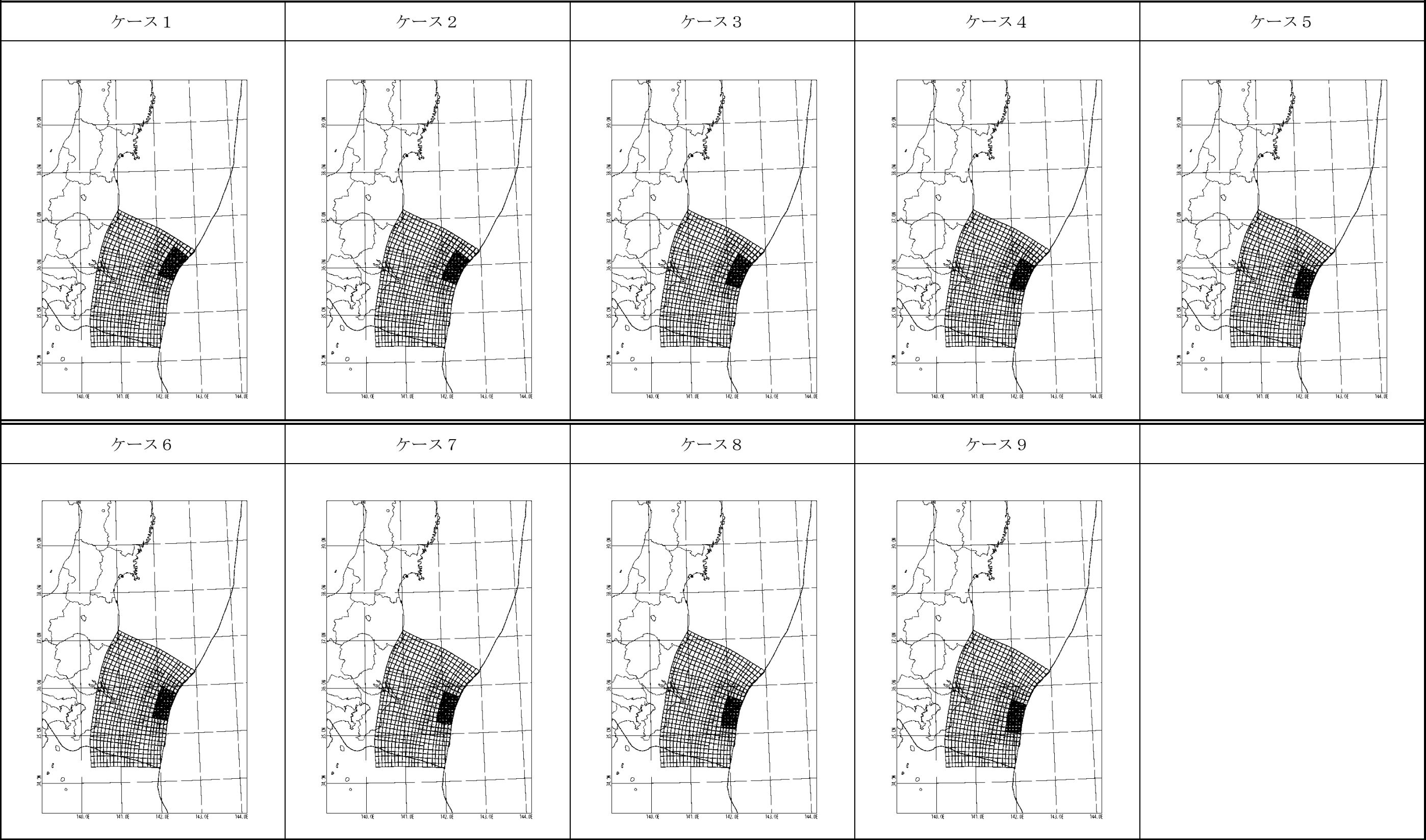


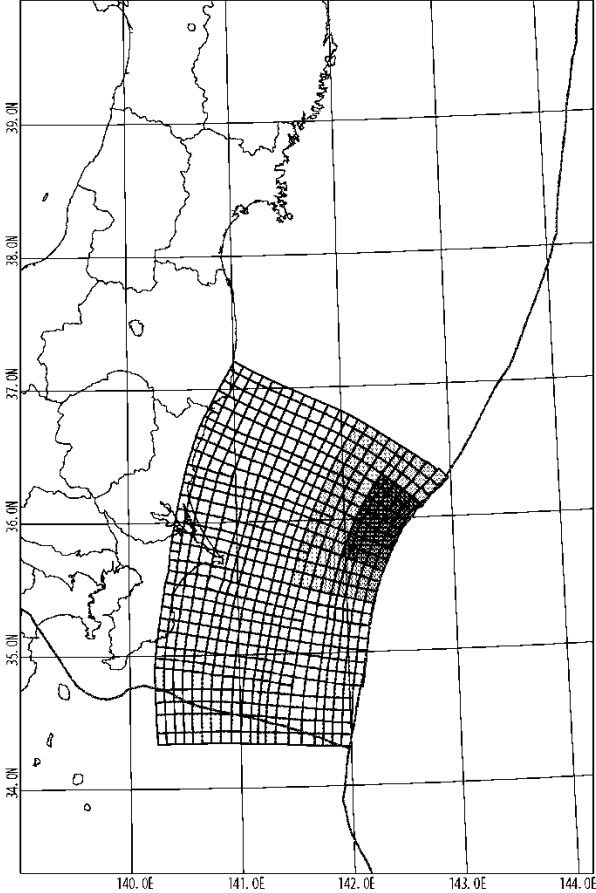
第 7.3-1 表 計算条件

解析領域	北海道から千葉房総付近までの太平洋
メッシュ構成	沖合 4,320m→2,160m→720m→沿岸域 240m→敷地周辺 80m→40m→20m→10m→敷地 5m へ順次細分化
基礎方程式	非線形長波理論
計算スキーム	スタaggerド格子、リーブ・フロッグ法
初期変位量	Mansinha and Smylie の方法
境界条件	沖側：自由透過、陸側：遡上を考慮
越流条件	防波堤：本間公式、護岸：相田公式
計算時間間隔	最小 $\Delta t = 0.05$ 秒
計算時間	津波発生後 240 分間

第7.3-2表 (1) パラメータスタディ一覧 (すべり量の分布)

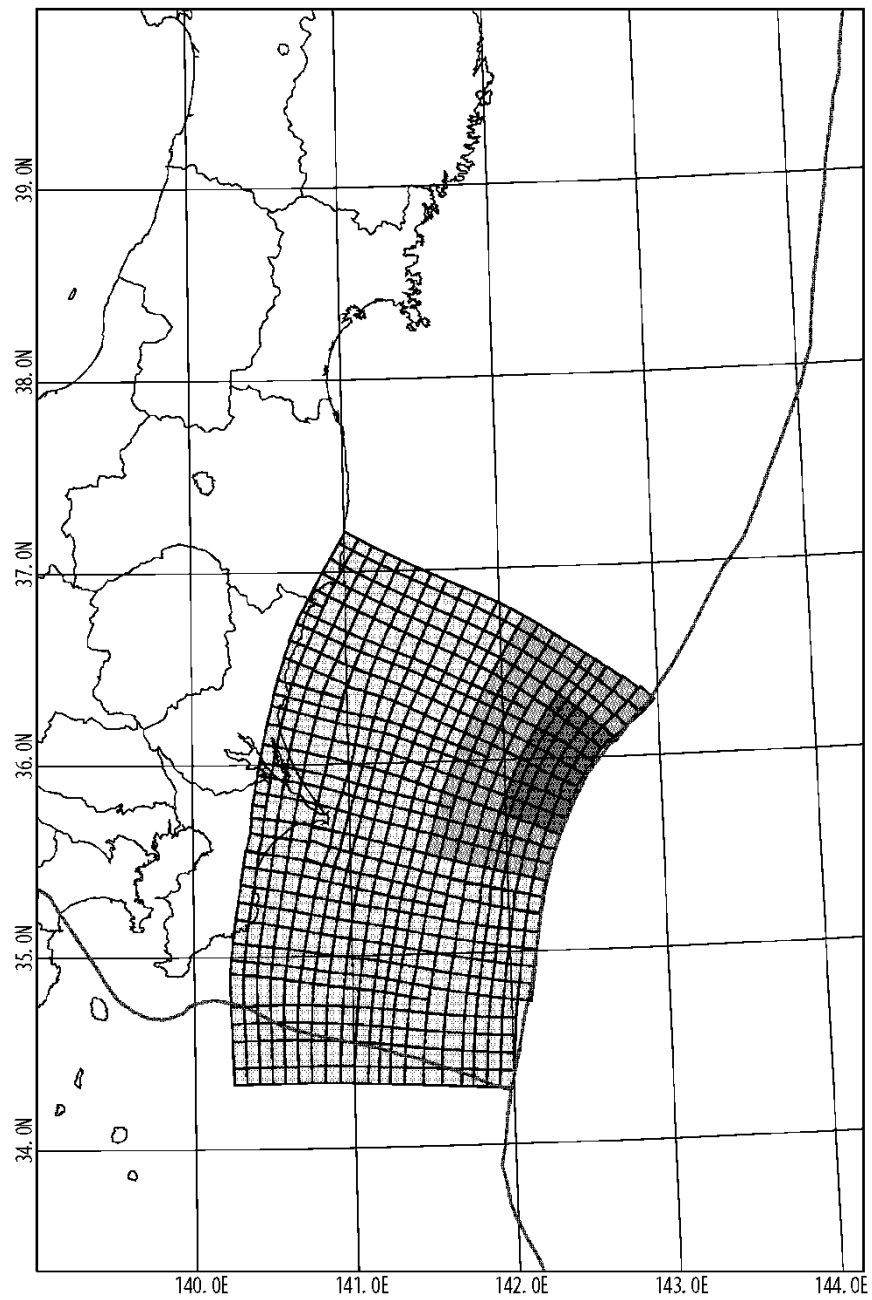


第 7.3-2 表 (2) パラメータスタディ一覧 (破壊開始点等)

破壊開始点	
破壊伝播速度	1.5km/s、2.0km/s、2.5km/s、3.0km/s
立ち上がり時間	0 秒、30 秒、60 秒

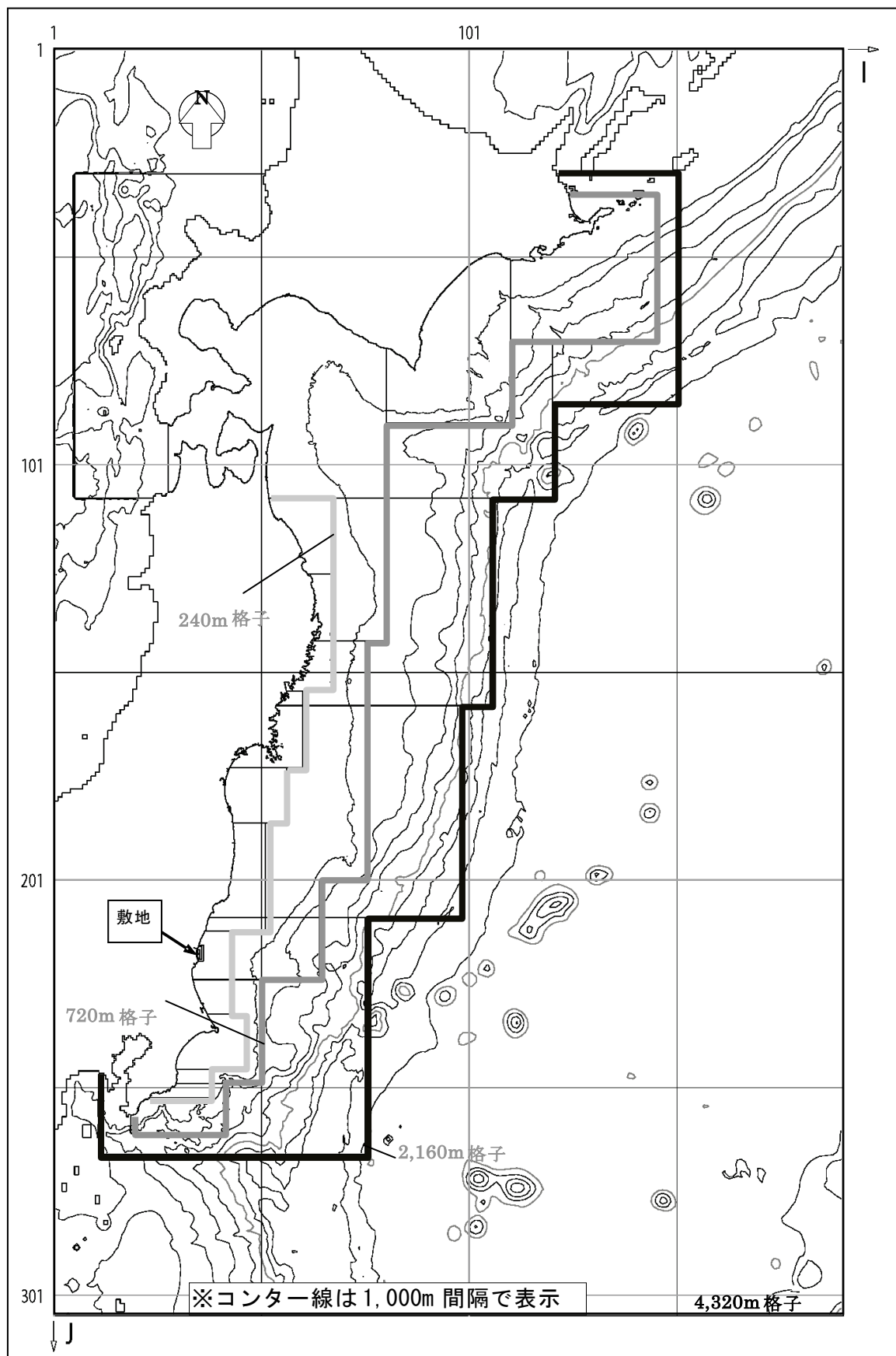
第 7.3-3 表 パラメータスタディ結果

	選定されたケース				最大水位 (T. P. m)	
	ケース	破壊開始点	破壊伝播速度	立ち上がり時間	原科研 1	原科研 2
水位上昇側 (敷地周辺)	2	⑥	3.0km/s	30 秒	13.8	12.5

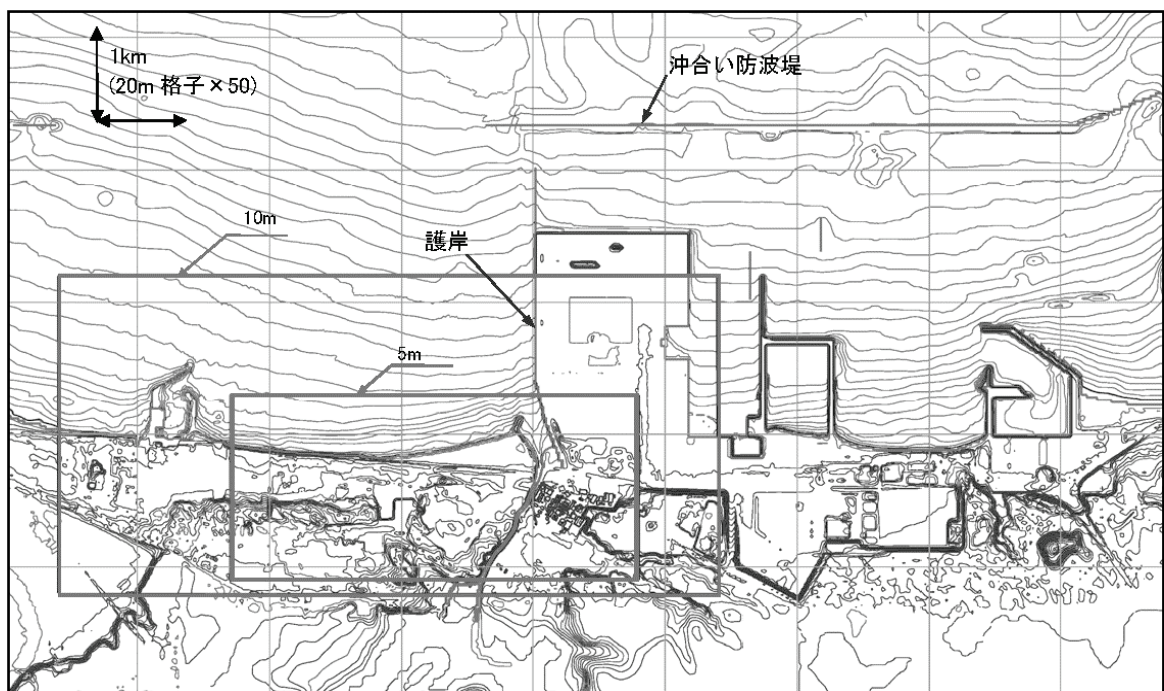


	背景域	大すべり域	超大すべり域
すべり量 (m)	3.8	12.1	24.3

第 7.3-1 図 茨城・房総沖 Mw8.7 の検討用波源モデル



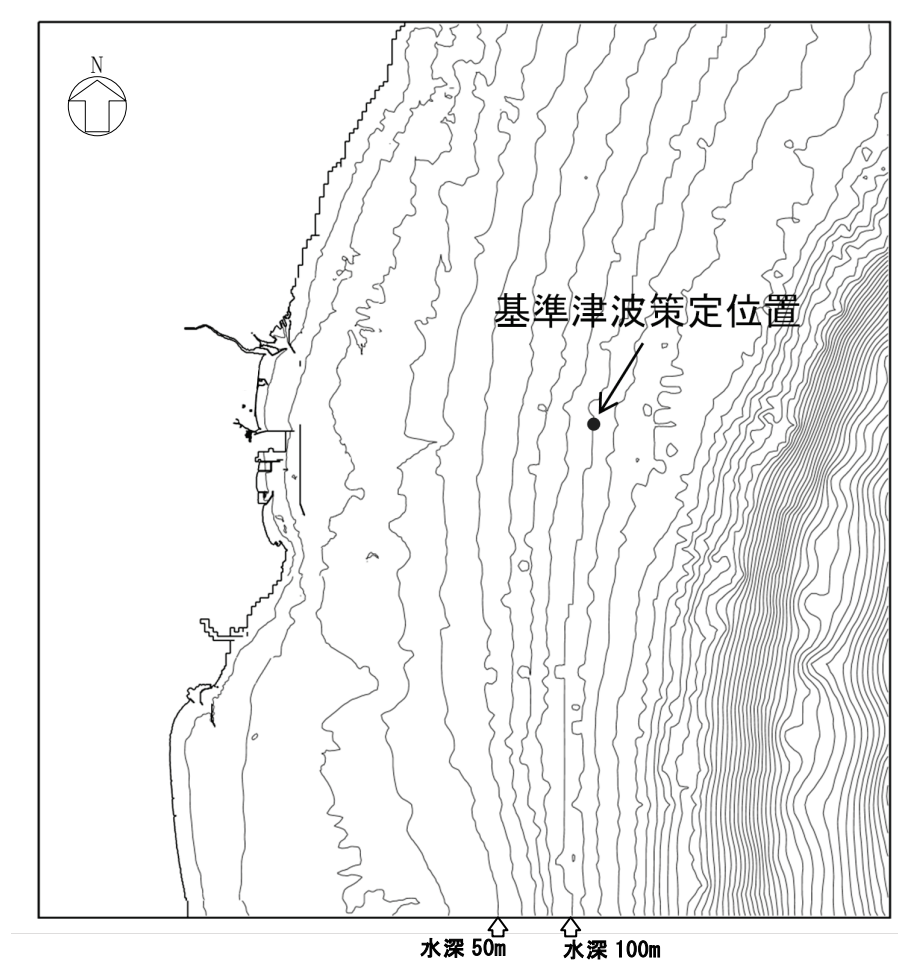
第 7.3-2 図 (1) 計算格子 (沖合～沿岸域)



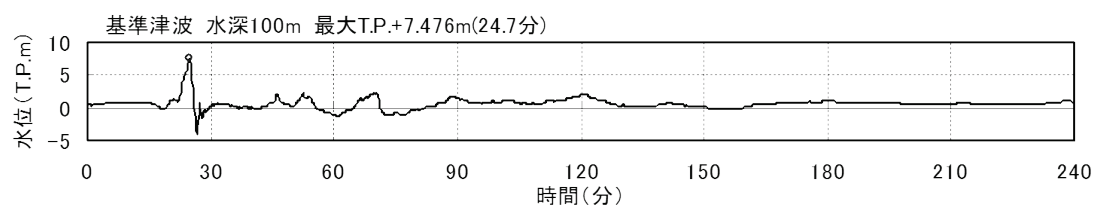
第 7.3-2 図 (2) 計算格子 (敷地周辺)



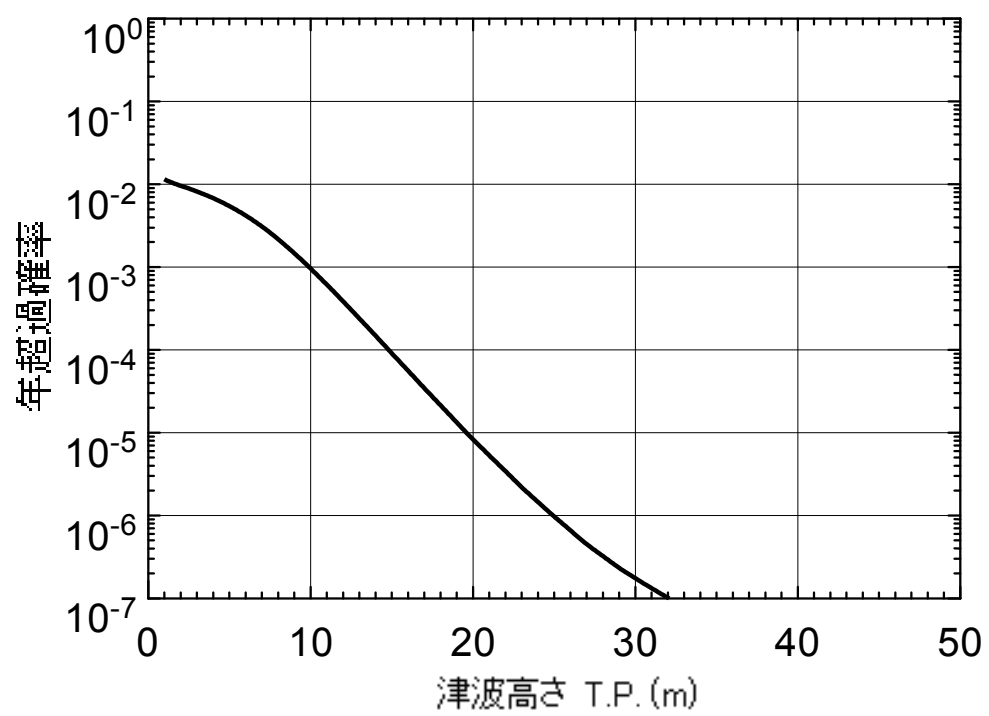
第 7.3-3 図 津波水位の評価結果



第 7.3-4 図 基準津波の時刻歴波形の算出位置



第 7.3-5 図 基準津波の時刻歴波形



第 7.3-6 図 平均ハザード曲線